

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、異業種交流活動を通して、持続可能な地域経済圏をつくり、夢と希望に満ちあふれた、元気な地域社会を目指します。

SEA

いわき経済同友会
IWAKI

3月号/2020年3月1日発行

三つの目的

- 一つ 元気な会社をつくろう
- 二つ 元気な人財をつくろう
- 三つ 元気な経済圏をつくろう

2月17日(月)
18:00～

2月通常例会

会 場
いわきワシントンホテル

演 題 「人口減少対策に効果的な新産業を考える～再生可能エネルギーの活用とまちづくり～」
講 師 常磐共同ガス株式会社代表取締役 猪狩 謙二様
東洋システム株式会社代表取締役 庄司 秀樹様



演題 「人口減少対策に効果的な新産業を考える～再生可能エネルギーの活用とまちづくり～」

演者 常磐共同ガス株式会社代表取締役 猪狩 謙二様

皆さんこんばんは、会員の猪狩です。

只今、私はこのバッテリーバレー推進機構の副代表理事をしております。庄司代表の力になっているかどうかは甚だ疑問なのですが、自分の能力を顧みず奔走している状況です。

今日はこのバッテリーバレーの概要についてお話をしたいと思います。(JKGコマーシャル)

現在、私共の常磐共同ガス(JKG)のコマーシャルを流しておりますが、私は将来的に『ガス』と言うのは、パラダイムシフトが起きると思っております。ですから、社名すらかえたいとおもっております。その布石の一つであります。

JKGエナジーのような名前にしたいので今年の6月まで流す予定です。それ以降、新しいものを作っていきたいと思っております。

21世紀枠で甲子園出場となった磐城高校の特別番

組を当社がスポンサーとなりますので、このコマーシャルが頻りに流れます。是非チャンネルを変えないでご覧になって頂きたいと思っております。

このいわき地区(相双を含めて)と言うのは、1856年に常磐炭田が片寄平蔵によって発見され、以来栄華をはかってきました。明治から昭和にかけて富国強兵の名の元に、戦争の度石炭を関東へ運んでいました。これが常磐炭鉱の歴史です。ですが経済活動と言うのはたかだか20年位でした。

最終的には高度成長時代は石油に押されてほとんど斜陽化の時代です。

1971年(昭和46年)閉山となり、それと入れ替わり福島第一原発一号機が稼働しました。新エネルギーとして登場しました。地産地消のエネルギーではなく、東電が来て関東に電力を送ることになりました。石炭も地元ではなく関東へ。そして、あの東日

本大震災が起こりました。

いわき、相双地区というのは文化の歴史が希薄ではないかと常に思っていて、“私たちがいわきの歴史を作る、未来を創る”という考えの元に、いわきバッテリーバレー推進機構を庄司さんの元で一生懸命やらせて頂いております。

昨年8月に菅官房長官に会いに行きまして、エネルギープラットホームについて説明させて頂きました。

森大臣にも、お話を聞いて頂きました。経済産業省、資源エネルギー庁の方々を紹介して頂きました。大変ありがたいことです。

また、庄司さんの会社の30周年記念の時にはノーベル化学賞を受賞された吉野彰さん（リチウムイオン電池開発）が駆けつけてくださりました。

裏方だったバッテリーが吉野さんのお陰で表彰台に立ったと思います。皆さんお持ちの携帯ですが、「バッテリーが凄いよね」と言う人はほとんどいませんでしたが、今になってみると“バッテリーって凄いんだね”と…。これは、私共の活動している中で画期的な事でした。

昨年1月23日ダボス会議（スイス）が開催され、安部首相がメタネーション（ H_2 と CO_2 からメタンを合成し CO_2 が理論上出ない）について、また、最近の所信表明の中にバッテリーバレー推進機構について言及されました。ありがたいことです。

バッテリーバレーの歴史的背景といたしまして、2012年4月に庄司代表が地域経済発展のためを提唱し立ち上げました。

2014年バッテリーバレー構想具現化検討研究会が生まれ、2015年誕生しました。現在に至ります。

2016年4月、第1回いわき未来博開催（グランパルティ）、現在はいわきバッテリーバレーフェスタとして開催（イオンの前）にいたっております。

私と庄司さんの出会いは、2011年震災があり、6月出張で上京した帰りの車窓から庄司さんの会社の横断幕『自衛隊の皆さん、警察の皆さん、消防の皆さんありがとう』が見え、「なんだこの会社、凄いな」と思い、アポを取りお会いしました。それからのお付き合いです。

私もCSR活動に目覚めて、庄司さんの足元にもおよばないですが、世の中の為に社会貢献活動をしています。9年になります。

人口減少・高齢化、若者特に高校生の7割が外部へ行ってしまう。いわきはもぬけの殻です。高齢者の世帯の増加。福島県の中でも特に人口減少が進むいわき市。中核市の中での人口増加ランキング51位、幸福度ランキング総合1位豊田市いわき市28位、

健康41位。

さて、いわきバッテリーバレー推進機構の取り組みですが、基本バッテリー関連産業の誘致、エネルギープラットホームの構築、これによって人口増加を計ると言う考え方です。

バッテリー産業の企業だけを集めてと言う訳ではなく、大きな企業を集めて進出して頂きたいと思います。

さて、将来的にIOT、AI、5Gが台頭していますが、バーチャルの世界であり生産が無く人が減る状態になると思われれます。

世の中の流れはIoT、AI、バッテリー、水素だと思われれます。この水素は国産のエネルギーです。水素はどこにでもある水を使って、どこにでもある太陽の光で生み出せる国産の資源です。バッテリーと一緒に蓄エネルギーなのです。

今現在、バッテリーバレー推進機構には庄司さんの会社、私共の会社も絡んでいますがNEDO（新エネルギー産業技術総合開発機構）のポテンシャル調査事業、これは3月答申で野村総研、東大などいろいろな所で調査しています。

これが非常にこれからのバッテリーバレーでの根幹を成すのではと考えています。事業費5,000万円から受託をしています。

私たちが理想としている再生可能エネルギーを単に電気として売るのではなく地（自）産地（自）消です。

この究極のエネルギー問題をいわきに構築したいと思えます。カーボンフリーファクトリー、燃料電池、蓄電池、マテリアルの工場群を誘致する為です。ここで作られた燃料電池、バッテリーは CO_2 を全く排出しないエネルギーで作られることを世界に誇ることができます。

そうすれば企業もこぞっていわきに来てくれるのではないのでしょうか。事実、興味を持っている企業もあります。企業を誘致して、人口を寄せ集めようと考えです。水素工場、水から水素を電気分解し、当然酸素も使いますが、色々利活用できます。

あとはメタネーション。これは工場から出た排ガス、火力発電所から出た排ガスと H_2 を混ぜて化学反応を起こし、ボイラーの燃料に供給する。そしてその排ガスをリサイクルする。つまりカーボンフリーです。

いわきから世界に発信したい。いわきを世界一の復興都市にする。いわきの発展を夢見てこれからも邁進していく所存です。

皆様のご支援ご指導をお願い申し上げます。

演題 「人口減少対策に効果的な新産業を考える～再生可能エネルギーの活用とまちづくり～」

演者 東洋システム株式会社代表取締役 庄司 秀樹 様

皆さんこんばんは、今日はこのような機会を頂きありがとうございます。今日は東洋システムについてご紹介いたします。(会社紹介動画)

バッテリーを中心とした会社です。私が27歳の時会社を創りました。その理由は、1985年皆さん覚えていますよね、ショルダー電話ができました。重さ3kgありました。話ができるのが1時間。これは絶対電池が問題という事で古河電池さんに聞きましたら「電池は生き物生もので大変なんだよ」と言われました。「計測する装置がないと24時間365日毎日データを取らなければならない」ということから「自動計測装置を作れば、業界が変わるんですか?」「いや、そんなものが世の中にあったら、あなたの言うようにコンピュータもアタッシュケースの中に入るでしょ」というヒントを貰ったので会社を設立いたしました。

今のスマホは180g位。劇的に変わりました。それから10年20年どんな世界が来るのかなと、その予兆を見逃さないで業務をやってきた事が非常に大切な事でした。

東洋システムは最初から大きな会社ではありません。当初はプレハブ小屋でございました。それからN社、F社、P社に選別作戦をやられて生き残ってきました。それは相手より先手を打って、我が社のコピー商品を出す前に性能を2倍に上げて1/2の価格で売り出したりと、大手をどんどん排除していきました。

東洋システムは製造業50%、サービス業50%です。自社の商品を使ったサービス業をやることによって、大手は撤退していきました。

バッテリーのプラットフォームになろうと思っています。世界基準を私達にしようと、この程、世界のグローバルの基本特許を取得いたしました。

私共の機械で、私達のサービスでないとできない事ですが、その時計を使った場合、何が起きるかという、リユースバッテリーは計測に3時間かかっている、相当の設備と人員がかかりますが、私たちの技術を使うとわずかに1分です。走っている車が走りながら自分の電池の寿命がわかるという技術の開発が既に終わっております。

大手自動車メーカー数社、バッテリーメーカー数社との共同研究開発の段階で、ここ2～3年の間には、私達のプラットフォームを利用した電池の残存容



量、寿命というものが皆さんの目にも触れるようになると思います。

それと同時に、福島県で再生可能エネルギー100%、メタネーションを利用した完全なCO₂フリーの会社を創ろうと考えています。東洋システムというのは、できない、どうやったらやれるか、どうやったら理解できるか、を社員と一緒に考えていまして、ピンチに立たされても、一歩ずつ力をつけて大きくなる、常にチャレンジを続けて、30年間やってきました。トヨタのプリウス、三菱i-MiEV (アイミーブ)、日産リーフとも繋がっています。

また地元では古河電池さんの長寿命のバッテリーを開発してハイオク車に搭載されました。また、これは7～8年宇宙空間を彷徨い戻ってきた“はやぶさ”に積んでいたコンピュータを動かしていたのが太陽光と古河電池のバッテリーです。これも古河電池さんと一緒にやらせて頂きました。

2009年Entrepreneur of The Year Japan全国大会グランプリ受賞 (日本代表)、2014年4月藍綬褒章受章、12月には第一回目の紺綬褒章。(紺綬褒章は5度頂きました)

2011年の東日本大震災には皆さんと同じく散々な思いをいたしました。それでも頑張ったのは、常磐共同ガスの猪狩さん達の熱い思いを知り、私自身も踏ん張りました。現在53億の売り上げ、計上利益4億の会社になりました。こんな時にCSRを考えたわけです。

- 地域の皆さんと共に安心安全な街づくりをやりま
- 未来を担う若者に夢やきっかけづくりをやりま
- 従業員と共に志の高い人材の育成をやりま
- 働きやすい職場づくりをやりま
- お客様と共にCSの品質向上をやりま

そして、地球環境と共に環境負荷の提言をやりま。というのがCSRの考え方で、社会貢献活動とし

て猪狩さんと一緒にやった震災時に石油ストーブを300台贈呈した“あったかハートプロジェクト”は大変喜ばれました。

また、12月には児玉龍彦先生による“放射線被害から国民を守る”講演会（小名浜スプリングスホテル）の開催をいたしました。いわき復興祭にはアシモさんの参加、防犯カメラの設置、昨年の台風時には、平窪・赤井地区の皆さんに備蓄物資を使っていたいただきました。

福島県民所得はどうでしょうか。いわき市の所得はどうでしょうか。付加価値収益力の企業がいる、そこから仕事が回らないと回りが潤っていかないのだと思います。ですから基本いわきの子供も達は東京へと流出します。

しかし、震災以降トヨタ自動車東日本が岩手と宮城に進出しました。これは富士山の真下にあったのですが、富士山が噴火した時生産が止まることを想定して東北に移転しました。

この空いた土地に、今トヨタは『町を創る』ということなのです。

東芝は、東南海地震予想で岩手県北上市に工場を造りました。宮城県には電池工場を造っています。これらは8,000億円の経済効果です。福島はこのように東京へ、宮城岩手へと子どもが流出しています。

いわき市の人口は2045年には生産人口と高齢者の数が逆転すると言われていています。大変な問題です。

消費力の低下、給与も更に下がり、治安の悪化と悪循環が始まってしまいます。これを何とか止めなくてはと思います。

日本では今、ものづくりをしていません。鉄鋼までもおかしくなって高炉のストップが始まっています。自動車以外の産業が良くありません。自動車という製品にして、付加価値を付ける事こそがGDPを引き上げて所得を高くすることであると思います。

日本では物が作れなくなってしまいました。大変な状態に今追いつめられています。ただ、様々なものとのバッテリーの融合をすれば答えは違います。バッテリーは負けても、リユース技術では私たちが海外に出さなければ、そう簡単にやられはしません。

今までは個別にバラバラに動いていたものを“メイドインいわき”で様々な企業が提携してやっていく事が、この地域が強くなることだと思います。

特に風力に関しては、商工会議所では何としても建設工事だけでも地元にと落ちて欲しい、建設業界の地域震災復興が終わった後の仕事を創らなければならないとお願いしていますが、非常に厳しい状況にあります。

ですから、各いわきの企業が協力してやるのが必須条件でありますし、また、環境と言うと金食い虫のように感じておられますが、環境と経済を一本化することが今後求められてきています。

それを人づくり・ものづくり・仕組みづくりとしてプラットホームをいわきから作っていくべきではないだろうかと思ひ、バッテリーバレー構想を進めている訳です。

自動車業界はどうかというと、トヨタは世界最高の技術を持っていて、それを盗もうとしている（盗んでも同じものが作れない）中国は、ハイブリットは認めない、水素自動車はダメと規制をかけています。電気自動車で沢山の事故が起きているのでこれも変わってきています。ヨーロッパはどうか？何としても日本を潰したいのです。アメリカには工場はありますがアメリカもそうです。これは全部電池覇権なのです。日本を締め出し自国電池・韓国・中国の電池を買っているとどうなるか？電気自動車の電池を間違えて充電したらどうなるのか？（映画上映）

どうしても電池の覇権を握りたいので、世界中の企業が電池設備の投資をやっています。

“電池を握ったものは世界を制す”と言われていています。これから起きる自動運転も電池が無ければなりません。飛行機、人工衛星、すべて産業が、電池が変わります。

○福島県は再生可能性エネルギーの推進

- ・医療官界産業の集積
- ・ロボット関連産業の集積

いずれも電池がキーデバイスです

○2015年よりいわきバッテリーバレーフェスタ開催

- ・水素で発電する燃料電池バス『SORA』
- ・大学院大学 誘致
- ・CO₂フリー社会の構築
- ・福島 風評被害の払拭



3月グループ会報告

第4グループ会

■日 時 2月22日(土曜日)
■場 所 つくばみらい市方面

第11回(2月度)移動グループ会:茨城県つくばみらい市方面の文化財を観る

ワープステーション江戸村へ到着。ここでは、中近世エリア(江戸村)と近現代ゾーン(明治・大正)時代の建造物(セット)があり、カメラを通して見るとその時代が見えます。

近現代ゾーンは、NHK放送で「いだてん」で撮影した町並み、路面電車(実際に動く)などを見学しました。

板橋不動尊は、本尊不動明王と両童子(国指定重要文化財)を祀ります。大本堂は元文2年(1737)建立の二重屋根入母屋造り、朱塗りの大本堂で豪壮にして華麗な密教建築の代表的様式の建造物が素晴らしいお寺です。また境内には、三重塔、楼門(いずれも茨城県指定有形文化財)があります。間宮林蔵記念館・生家を見学。江戸時代の大探検家・測量家である間宮林蔵は1809年のカラフト探査により「間宮海峡」を発見した。記念館にはゆかりの資料が豊富に揃っており、その人物・功績が伺われます。

小貝沼橋は、昭和31年に小貝川兩岸の村(平沼と下小貝)を結ぶために作られた木製橋。橋巾は狭く1.5mほどで欄干はない。その風景は、映画やドラマの撮影に利用されている。見学に向うが道を間違え筑波山つつじヶ丘駐車場に到着する。

ここは、女体山山頂までのロープウェイの駅です。付近を散策し帰平する。

無事に帰平する。

第5グループ会

■日 時 2月17日(月曜日)
■場 所 ワシントンホテル

「人口減少対策に効果的な新産業を考える 再生可能エネルギーの活用とまちづくり」

東洋システム株式会社等の取組み内容等を学び、バッテリー事業、クリーンエネルギー事業等がいわき市における有力な産業振興策及び人口増加策となりうる可能性を秘めていることを学ぶことができた。

バッテリーバレー構想、蓄電池産業の可能性、水素エネルギー始めクリーンエネルギー産業の可能性等について知識を習得し、いわき市及び福島県の有力な産業振興策の1つとなりうること及びそれに伴う人口増加策の1つとなることを学ぶことができた。

◆ 誕生日プレゼント

リーガベコニアが贈られました



誕生日は、写真左から安島代表幹事、小野潤三さん(2月15日生)です。

FMいわき「いわき経済同友会だより」

【4月予定放送】

- ・4月6日 代表幹事 小野 賢司 様
- ・4月13日 第1グループ会 佐久間一枝 様

◇毎週月曜日17時45分からです。(約5分間)

- ・4月20日 第2グループ会 波多野和茂 様
- ・4月27日 第3グループ会 木部 浩行 様

※インターネットでも、FMいわきがお聴きできますので、17時45分になったら、下記のところをクリックして下さい。

<http://www.simulradio.jp/>

いわき経済同友会 ご入会のお勧め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail: doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事
編集 情報委員会 委員長 坂本和久
副委員長/常葉修一・波多野和茂・松尾幸治
四ッ倉隆裕・山中荘士郎